



全国学力・学習状況調査の結果から

本年4月に6年生を対象に実施されました「令和4年度全国学力・学習状況調査」(以下「学調」)の結果が文部科学省から公表されました。この調査は、児童の学力学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としています。なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご了承ください。

本校では、本調査を受けるにあたって、昨年度のみえスタディチェックの結果を分析し、指導を重ねてきました。その結果、スタディチェックのポイントは改善しましたが、学調では、国語は全国比-8.6ポイント、算数は全国比-10.2ポイント、理科は全国比-9.3ポイントという結果でした。

結果の公表を受けて、教員全員で結果を分析し、課題を共有し、課題克服の取組を全学年で進めていきます。(既に始めている取組もあります。)以下に主な分析・課題・取組を掲載します。保護者の皆様にもご理解ご協力をいただき、取組の充実につなげていきたいと考えます。

【教科調査から】

「国語」

「話し合いの文」(=会話文)の内容をつかむことはできていました。しかし、「初見の長文の文章の内容を把握する」「複数の資料を使って、情報を組み合わせて解答する」については大きな課題がありました。これらの課題に対しては、普段の授業で、読み取りや書くことを意図的に増やす授業改善を行っていくことに加えて、「読む・書くワークシート」の取組を全校で行っていきます。「読む・書くワークシート」は、市教育委員会教育指導課より配信されるワークシートです。本校では、主に朝の学習の時間に「ワークシート」を使って、言語能力や読解力の基礎基本を育成していきたいと思えます。「読む・書くワークシート」に提示される文章は、子どもたちにとっては初見の文章です。その初見の文章を使って、低学年では、「音読と視写」を行います。音読と視写は、日本語のリズムや文章の構成力の育成に効果があります。中・高学年では、初見の新聞記事を活用して、読解力を育成したり、文章や写真・図表を結び付けたり、必要な情報を見つけたりする力を育成していきたいと思えます。

「算数」

基本的な計算についてはできていました。しかし、算数用語を使って求め方を説明したり、問題に示されている解き方(自分のいつもの解き方とは違った解き方の場合)を説明したり

する問題に課題がありました。普段の授業から、算数用語を使って話したり書いたりする活動を意図的に取り入れていくとともに、1つの問題に対し、グループ学習等で自分の解き方や考え方を伝えたり、友だちの解き方を聞いたりする中で、様々な解き方に出会う機会を多くしていきます。また、文章問題に無答や題意に沿わない解答が多くありました。これは、文意がつかめず、何を聞かれているか分からなかったためと考えられます。すぐに読解力は育ちませんが、普段の授業で、「求めるものは何か」「わかっていることは何か」を確認することを繰り返すことで、問題文を構造的に読解する力をつけていきたいと思ひます。

「理科」

実験器具の使い方についての理解はできていました。しかし、観察や実験等で得た結果を、考察し、それを記述する力に課題がありました。観察や実験の後、結果だけを注視するのではなく、理由や考察を記述させる場面をこれまで以上に多く取り入れていきたいと思ひます。また、理由や考察をグループ等で話し合う場面をつくり、いろいろな考えや表現に触れる機会をつくっていききたいと思ひます。

【児童質問紙調査から】

学調には、教科調査とともに、児童質問紙調査があります。児童質問紙の回答結果から、「就寝時刻や起床時刻が決まっている」「朝食を必ず摂っている」などの基本的な生活習慣への肯定的な回答は、全国平均値と同等でした。リズムある生活が子どもの成長にとって大切であることをご家庭でも共有していただいている結果であると思ひます。

しかしながら、以下の質問項目に課題が見られました。

- ・平日1日当たり3時間以上テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム・携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム）をしていると答えた児童が、全国比+11.8ポイント
- ・平日1日当たり3時間以上携帯電話やスマートフォンで、SNSや動画視聴をしていると答えた児童が全国比+6.3ポイント
- ・平日1日当たり1時間以上家庭学習をしていると答えた児童が、全国比-6.1ポイント
- ・平日1日10分以上家庭で読書をする答えた児童は、全国比-4.8ポイント

ゲーム時間やメディア視聴時間、家庭学習時間、読書時間は、学調の教科調査の点数と強い相関関係があります。これまで家庭学習の手引きをつくり配付や、家庭学習強化週間の取組を行ったりしてご家庭の協力をいただけてきましたが、さらにその取組を進めていきます。また、ゲームやメディア依存の危険性についての学習を行ったり、ノースクリーンデー（ゲームや携帯・スマホを使わない・頼らない日）の取組を行ったりして、スクリーンタイムの削減をめざしていきます。また、読書時間を増やすために学校では、教職員が読み聞かせをしたり、様々な図書館イベントを開いたり、巡回指導員を活用したりして、読書への関心・意欲を高める取組を行っていききたいと思ひます。